国立研究開発法人科学技術振興機構
科学コミュニケーションセンター

科学技術コミュニケーション推進事業機関活動支援型
平成 27 年度採択企画
実施報告書

１．企画名

ツシマヤマネコの保護・増殖に貢献する科学技術の提示と離島の産業への展望

２．提案機関名

独立行政法人 国立高等専門学校機構 佐世保工業高等専門学校

３．提案企画の概要

本企画は長崎県対馬市にある環境省対馬野生生物保護センターと連携して実施する、ツシマヤマネコ保護・増殖事業に係る啓発活動を目的とする。ツシマヤマネコの野生個体は対馬にのみ、100 頭弱が生息しているが、毎年、複数頭が交通事故等の被害に合っている。その一方、個体の保護・増殖や生息域の拡大など、生息を支援する活動も活発に行われている。本企画では次世代の保護活動に関わる人材の輩出を目指して、同センターによるこれまでの啓発に加え、生態調査活動に協力する科学技術を紹介し、生態学と工学の両面からツシマヤマネコの保護問題に取り組む姿勢を市民と共有する。さらに、対話を通じて、保護活動のための産業創生を模索する。

４．企画の特徴

本企画は単なる科学啓蒙的イベントに留まるものではなく、また、保護活動への協力を訴えるだけのものでもない。あまり一般市民に浸透しているとは言いがたい学際領域的活動を、具体的には生態学が中心となるツシマヤマネコの保護・増殖およびその環境保全に対して工学を代表とする科学技術が貢献する手段と方法を、知ってもらうことが主目的である。課題設定として対馬特有かつ身近な環境問題であるツシマヤマネコを取り上げ、さまざまな方法で課題解決に向けた取り組みができることを理解・共有する。さらにその保護活動のための科学技術の貢献や産業の創生へ議論を展開し、離島特有の問題である、限定的産業の規模縮小と人口流出を打開するための取り組みを生み出すきっかけをつくる。

５．総合所見

目標の成果が得られ、科学技術コミュニケーションが推進された。

ツシマヤマネコの保護活動を素材に、科学技術の多角的アプローチの様相を一般市民と共考し、これを通じて対馬という離島の環境・経済保全に資する人材育成のきっかけをつくるとのねらいに即した活動が実施できたことは評価できる。今後も、離島ならではの科学コミュニケーション活動を展開していただきたい。今後、対馬以外の幅広い団体やステイクホルダーとともに、観光産業と科学技術の組み合わせなど、創意工夫し幅広い視点でのソリューション開発に結び付けていただきたい。

６．実施者からＰＲ・感想について

私たちは対馬の固有種であるツシマヤマネコの保護活動をテーマに科学技術との関わりを模索するイベントを実施しました。野生生物の保護というと生態学や自然ばかりが想起されますが、実はその生態調査などには工学的なテクノロジーを駆使しています。一見つながりのなさそうな分野同士でも深く関わり連携している、そんな学際分野を身近に考えてもらおう、というのが私たちの活動の趣旨です。

開催した 2 回のイベントでは、ヤマネコ調査で活用されている科学技術の体験・紹介に加えて、高専の研究者による公開科学実験も実施しました。トークイベントでは宮城県仙台市での「サイエンス・デイ」の活動についての講演をはじめ、「身近な疑問からもっと科学を考えよう！」を目指してたくさんの専門家と高校生、一般の皆さまとが議論しました。科学や技術は専門家（研究者）ばかりのものではなく、誰にでも開かれたものであることを実感してもらえたならば幸いです。

ただ科学や技術を楽しむところから始めて、将来、自分が生まれ育った地域を元気にさせるためにそれらを学び生かしていく、そんな社会になるきっかけをこれからも作っていきたいと思います。

サイエンスカフェの様子

ヤマネコ調査機器の模擬体験

以上